



平成29年9月14日

川西町議会議長 加藤 俊一 殿

川西町議会総務文教常任委員会
委員長 橋本 欣一

閉会中の所管事務調査先進地視察調査報告について

平成29年第2回川西町議会定例会において許可された所管事務調査（先進地視察調査）について、別紙のとおり報告します。

9

0

平成29年度 総務文教常任委員会行政視察報告書

I 視察期日 平成29年8月2日(水)～8月4日(金)

II 視察地

- 1 熊本県南小国町
- 2 熊本県人吉市

III 視察参加者

委員長	橋本 欣一	副委員長	鈴木 幸廣
委員	金子 一郎	高梨 勇吉	淀 秀夫
	遠藤 章一	伊藤 進	
未来創造室長	遠藤 準一	参加総勢	8名

IV 視察目的

【新庁舎整備】に関する先進地視察調査

V 視察報告書 「1」

1. 視察地 熊本県南小国町
2. 日時 平成29年8月2日(水) 午後1時40分から3時15分
3. 場所 南小国町役場議会委員会室
4. 視察対応者

南小国町議会	議長	平野 昭夫氏
〃	事務局長	下城 孝浩氏

5. 視察自治体の概要

南小国町は、九州の中央部熊本県の東北部に位置し、地形は阿蘇外輪山、九重連山の標高430mから945mにあり起伏が激しく、一部は阿蘇くじゅう国立公園の属する。総面積115.86km²の80%が山林原野で占められ、緑と水のきれいな観光と農林業を主産業とする人口約4,000人の純農村地帯である。

観光面では、町内大小6つの温泉地があり入込客は宿泊客44万人、日帰り客60万人の約100万人の入込客がある。農業分野では、米・高冷地野菜・畜産等に取り組んでいる。また、林業では素材生産が減少していることもありペレットストーブ、木質バイオマス等の再生エネルギーの活用を推進している。

同町では、「日本で最も美しい村」連合に加盟し、失ってしまえば二度と取り戻せない日本の農山村景観や環境、文化を守り将来に渡って美しい地域を守り続ける取り組みを行っている。

6. 視察研修の内容

《新庁舎建設の経過について》

南小国町の旧庁舎は、昭和40年代に建設されたが、その後の耐震基準の強化に伴い、役場庁舎として十分な耐震性能を保持していない状態となった。

また、平成7年の阪神淡路大震災の発災により、平成8年に耐震調査を実施したところ耐震性能の不足が判明した。その後平成24年まで旧庁舎のままの行政運営となっていたが、同年6月に新庁舎基本構想を策定し建設することを決定した。また、町の基幹産業である林業をめぐる環境も厳しくその振興も急務であった。これらの事情から、木造による新庁舎を建設することとした。

12月には、プロポーザル方式により設計者を選定した。同方式の応募には、第1段階で34社の応募があり5社に絞り込み、第2段階において5社から1社に決定した。平成25年12月に実施設計を終了し、平成26年1月着工、平成27年3月に竣工した。

《新庁舎の概要》

規 模 地上2階建て

敷地面積 7,898.51 m² 延床面積 2,404.12 m² 構造種別 木造一部RC造
事業費

工事費の内訳	本体工事費	7億9615万円
	外構工事費	7806万円
	設計管理費	9663万円
	材料費等	3043万円
	合 計	10億127万円

財源内訳	基 金	3億6643万円
	補 助 金	1億8314万円
	一般財源	4億5170万円
	合 計	10億127万円

その他 旧庁舎解体費用 約5億円

《新庁舎の機能や仕様について》

南小国町役場建設の基本方針は、①行政サービスの向上とし、ゆとりある窓口カウンター、ゆっくりと面談できる相談室、ワンストップサービス
②美しい村の役場にふさわしい心遣いとし、段差が少ない平屋建てで高齢者にも使いやすいカウンター 省エネルギー対策、自然エネルギーの活用による次世代の規範的な建築 敷地の緑化等による景観面の配慮 ③町民の暮らしの安心・安全を支える観点から、浸水時にも水没しない床高さの確保や耐震性能の確保と、非常時における庁舎機能維持 ④町民の交流をうながし、まちづくりを進める事では、町民が使用できるギャラリーやイベント空間の併設、町民に開かれた議場の設置を

定めている。この基本方針の中で当委員会で注目したのが、町民に開かれた議場の設置である。議場は南小国産の木材を多く使用した多目的ホールであり、各種のイベントやコンサート等にも使用されるとのことであった。また、議場の管理は総務課が行い定例会等が開かれる際は議会側が借り受けるシステムでありより町民が利用できる空間であると思われる。但し、イベントホールとしての音響設備や備品等の経費が約1000万円強、広い空間の冷暖房の光熱費が嵩んでいるとのことであった。

視察報告書 「2」

1. 視察地 熊本県人吉市
2. 日 時 平成29年8月3日（木）午後2時00分から3時30分
3. 場 所 人吉市カルチャーパレス
4. 視察対応者

人吉市議会 議長 田中 哲氏
人吉市役所

市庁舎建設推進室長 井福 浩二氏
市庁舎建設推進室 東 和人氏
財政課長 植木 安博氏

5. 視察自治体の概要

人吉市は、熊本県人吉盆地の西南端に位置し、宮崎、鹿児島両県と接している。面積の7割以上の山間地と、日本三急流の一つである球磨川が織りなす豊かな水系が独特な風土を育み、温暖多雨な気候でありながら昼夜の気候格差が大きいことや、零度以下の冬日、霧の発生などが特徴で「九州の小京都」と呼ばれる山紫水明のまちである。

また、国宝青井阿蘇神社、国指定史跡人吉城、国重文阿弥陀如来坐像を安置する相良家菩提寺の願成寺をはじめ、相良700年の歴史を物語る多くの重要文化財が存在し、神社・仏閣、古い町並みなどが点在し落ち着いた城下町のたたずまいを残す人口約33,000人の市である。

6. 視察研修の内容

《新庁舎建設の経過について》

人吉市役所の新庁舎建設計画は、平成28年4月に発生した熊本地震前から計画があり、平成26年1月に市庁舎移転に関する校区毎の説明会を実施さらに、同年2月に市庁舎建設位置に関するパブリックコメント、また平成27年2月に新庁舎移転建設基本計画案に関するパブリックコメントを行い同年3月には新庁舎移転建設基本構想を策定した。この時点においては、新庁舎の建設費は一般財源からの40億円としていたが、市長選挙が行われる時期であり総合庁舎か、分庁舎化での争点で分庁舎化の市長が当選し計画の見直しを行っていた。しかし、平成28年4月に熊本地震の発災を受け、災害

復旧事業債の起債ができるようになり、防災機能をより充実するため、総合庁舎方式の建設構想となり交付税処置45億円一般財源10億円の合計55億円の建設費とし、平成29年2月から7月にかけて住民説明会を実施し理解を得た。

《新庁舎の概要》

規模 地上5階建て
敷地面積 約11,838㎡ 延床面積 8,882㎡ 免震構造 鉄筋コンクリート造
事業費 55億円 交付税措置45億円
一般財源(市費)10億円

※総事業費55億円のうち一般単独災害復旧事業債で51億円を見込んでいる。

川西町での起債の形とは異なる。

《新庁舎の機能や仕様について》

人吉市役所建設の基本方針は、①市民を守るための安全・安心な庁舎とし、災害時には、機動的に人命救助・復旧作業の指示や情報収集・伝達等の災害復旧活動を行う機能を備え、司令塔となる災害対策本部を設置し、防災・災害対策拠点として安全性を確保する。②来庁者や地球環境にやさしい庁舎とし、訪れた誰もが不便や不安を感じることなく、安心して使えるユニバーサルデザインの導入、敷地内や屋上等の緑化検討や、木材などの地元産材の活用を推進。③親しみを感じる庁舎とし、人吉らしい景観および歴史・地域で育まれた豊かな文化を配慮したシンボルとなる庁舎デザイン。④機能性・効率性を重視した経済的な庁舎とし、市民ニーズや業務の変化に柔軟に対応できるオープンプローア方式を基本とし、建設費用や将来の財政に及ぼす影響について検討し、費用の削減を目指す。⑤ICTを活用した行政サービスの向上とし、行政に関する情報や住民活動に関する情報スペースの整備を行う。

また、議場の解放については今まで住民に開放したことは無く、今後議会と検討しながら方針を決めていきたいとのことであった。

【視察報告のおわりに】

今回、九州熊本の2市町の新庁舎建設状況の視察を行い、熊本地震の被災地であったため、いち早い復興の重要性を痛感した。また、庁舎建設にあたり住民の意見を十分に聞き入れ庁舎建設の基本計画を策定している。本町も計画策定にあたり住民各位の意見を十分取り入れた計画を示していただきたい。また、財源の確保や将来的な財政負担も慎重に検討し事業を推進しなければならない。当議会としても今後、町当局と議論を尽くしより良い庁舎建設に尽力していく。

また、議場の多目的使用に関しても検討していかなければならない。